

本願寺八幡別院

近江八幡市北元町 39-1

浄土真宗本願寺派

地元・近江八幡で「御坊さん」と親しまれている本願寺八幡別院は、1558（永禄元）年に本願寺第 11 代顕如上人が江州蒲生野に創建された金台寺を前身としています。1580（天正 8）年に織田信長の寺地寄進により安土城下へ、1592（文禄元）年に豊臣秀次の寺地寄進により八幡城下、現在の地へと移されました。その後、1876（明治 9）年に八幡別院と改称され、今日に至ります。

現在の本堂は 1716（享保元）年、表門は 1767（明和 4）年、裏門は 1782（天明 2）年、鐘楼は 1825（文政 8）年にそれぞれ建立され、いずれも滋賀県有形文化財の指定を受けています。別院周囲には堀が廻らされ、城郭のような風情を残しています。

近年は滋賀教区・本願寺八幡別院修復総合計画に基づき、教区会館を新設し、続いて裏門・庫裏・表門・鐘楼・本堂と順次修復工事を行い、2004（平成 16）年 5 月に落慶法要を営みました。



朝鮮通信使との関わり

戦国の世が終わり徳川幕府による平和な時代が訪れると、隣国・李氏朝鮮は善隣友好のために、「朝鮮通信使」と呼ばれる使節団の訪日を再開しました。一行は毎回 400 人前後の大行列で、行程は漢城（ソウル）から釜山へ出て海路を取り大阪湾へ。淀から上陸して中山道、東海道経由で江戸に向かいました。

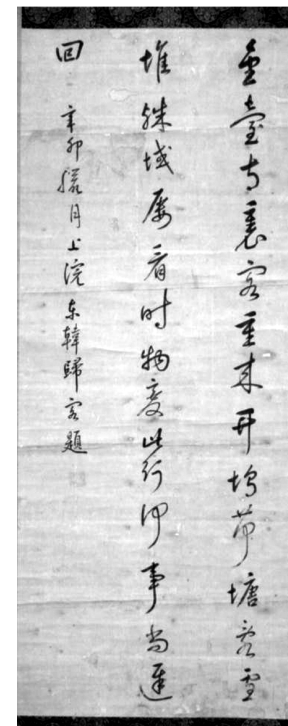
徳川將軍の交代時に新將軍祝賀などの名目で、慶長 12 年（1607）年の第 1 回から、約 200 年間に 12 回訪れました。

近江八幡は昼食休憩の場所に指定されており、本願寺八幡別院（金台寺）は正使など最上級者の休憩場所でした。

通信使の道中記録のひとつ『奉使日本時間見録』には、八幡別院に関する一文が次のように記されています。

「昼食の館に入っていったが、すなわち八幡山の金台寺である。壮麗ではないが、またおのずと瀟洒であり配置されたすべての諸具が森山（守山）より優れていた。」

李邦彦 詩書



第 8 次通信使来訪（正徳元年・1711）の帰国時、三使のうちの従事官である李邦彦から七言絶句の詩が贈られています。（市指定文化財）

【翻刻】

金台寺裏客重来 / 竹塢荷塘乱雪堆 /
殊域属看時物变 / 此行何事尚遅回

辛卯臘月上浣 東韓帰客題

【要約】

金台寺に再び訪れると、竹垣に雪がうず高く積もっている。移りゆく時間はしばしば私たちの見るものをかえる。（この旅で）私たちはなんと長い時間を（異国で）過ごしているであろうか。